

行政の窓

北海道林業再生研究会について

「北海道林業再生研究会」は、道内の林業と木材産業の活性化を図るため、産学官の幅広い連携により平成 18 年に設立され、これまで川上から川下までの様々な課題とその方策について検討しています。

さる 9 月 3 日、札幌市の北農健保会館において、平成 20 年度総会・全体会議が開催され、道内各地から参加いただいた会員の方々をはじめ、100 名を超える参加のもと大変盛況な会議となりました。

北大名誉教授である研究会高橋会長からのあいさつの後、議事に入り、総会議案である平成 20 年度事業計画や、全体会議で説明された具体的な活動内容について、会場から活発な質問がありました。なお、議案については全て了承されました。



平成20年度総会の概要

<p>〔議案第1号〕 役員の変更について</p>	<p>会 長：高橋 邦秀 (北海道大学名誉教授) 幹事長：柿澤 宏昭 (北海道大学大学院農学研究院教授) 幹 事：甲斐 武治郎 (北海道森林組合連合会代表理事専務) 本橋 正人 (北海道木材産業協同組合連合会専務理事) 佐藤 肇 (北海道森林管理局企画調整部企画課長) 中島 俊明 (北海道水産林務部林務局林業木材課長)</p>												
<p>〔議案第2号〕 平成 19 年度 事業報告について</p>	<p>1 研究会の活動 ・ 総会、全体会議を 1 回、分科会を年 1～3 回開催 ・ モデル地域（網走東部・網走西部・十勝・上川北部）での会議などの実施</p> <p>2 分科会の活動 林業再生研究会の下に 3 つの分科会を設置し、分科会を中心に検討</p> <table border="1" data-bbox="443 1249 1358 1608"> <thead> <tr> <th>分科会名</th> <th>座長</th> <th>検討結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資源管理</td> <td>高橋 邦秀 北海道大学名誉教授</td> <td>人工林資源の管理のあり方(案)、これからの人工林資源管理対策</td> </tr> <tr> <td>林業経営</td> <td>柿澤 宏昭 北海道大学教授</td> <td>カラマツ低密度植栽の状況、土ソリによる集材、カラマツ人工林の林業利回りの算、施業集約化の取組など</td> </tr> <tr> <td>木材加工・流通</td> <td>平井 卓郎 北海道大学教授</td> <td>住宅部材としての利用拡大、モデル地域における検討、企業の顧客価値調査</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 「人工林資源管理のあり方」について道へ提言</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>道：人工林資源管理方針の策定</p> </div>	分科会名	座長	検討結果	資源管理	高橋 邦秀 北海道大学名誉教授	人工林資源の管理のあり方(案)、これからの人工林資源管理対策	林業経営	柿澤 宏昭 北海道大学教授	カラマツ低密度植栽の状況、土ソリによる集材、カラマツ人工林の林業利回りの算、施業集約化の取組など	木材加工・流通	平井 卓郎 北海道大学教授	住宅部材としての利用拡大、モデル地域における検討、企業の顧客価値調査
分科会名	座長	検討結果											
資源管理	高橋 邦秀 北海道大学名誉教授	人工林資源の管理のあり方(案)、これからの人工林資源管理対策											
林業経営	柿澤 宏昭 北海道大学教授	カラマツ低密度植栽の状況、土ソリによる集材、カラマツ人工林の林業利回りの算、施業集約化の取組など											
木材加工・流通	平井 卓郎 北海道大学教授	住宅部材としての利用拡大、モデル地域における検討、企業の顧客価値調査											
<p>〔議案第3号〕 平成 20 年度 事業計画について</p>	<p>○平成20年度活動方針 一昨年の本研究会立ち上げ以降、道産人工林材に対する内外からの需要が高まる一方で、伐採跡地の増加が懸念されるなど、森林、林業・木材産業をめぐる状況は大きく変動しており、このような情勢を踏まえ、平成20年度は、実践結果を踏まえた各分科会等における検討を行い、中長期的な視点に立った取組方向を提言していく。</p> <p>○分科会 平成 18 年度に設置した 3 つの分科会を継続する（テーマは次ページ参照）。</p>												

全体会議の概要

平成20年度の進め方

- ・ 実践結果を踏まえた各分科会等における検討（分科会は3回を目処に開催）
- ・ 中長期的な視点に立った取組方向を提言
- ・ 今後（平成21年度以降）の北海道林業再生研究会のあり方の検討
- ・ 3分科会の連携

■各分科会の取組

分科会名	テーマ	主な取組内容
資源管理	人工林資源からの出材と将来にわたる木材の安定供給	人工林資源管理の手法とシミュレーションを使った議論を進め、研究テーマの実現に向けた提言案を議論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工林資源の保続が懸念される流域を選択 ・ 地域（流域）協議会を設置し、対策を検討 ・ 森林資源情報調査により、森林の質的調査結果をシミュレーションに反映 ・ 従来のシミュレーションの伐採量に径級別出材予測を追加
林業経営	持続的な人工林資源の供給・更新が可能な低コスト林業の確立	モデル地域による取組等を検証するとともに、分科会を開催し、研究テーマの実現に向けた提言案を議論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育林分野における低コスト化検討 ・ 素材生産分野における低コスト化検討 ・ モデル地域等における取組検証 ・ 経営システム分野の検討 ・ 木材の生産目標ごとに低コストな施業体系のモデルを提示 ・ 森林経営のあるべき姿を提示
木材加工・流通	低コストで品質・性能の優れた人工林材の加工・流通体制の整備	モデル地域による取組等の検証など、分科会での検討を経て、研究テーマの実現に向けた提言案を議論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木材産業を取り巻く状況分析 ・ 資源の持続性を前提とした原木の安定確保に向けた検討 ・ 最終需要を見据えた販売戦略の構築に向けた検討 ・ 生産・流通コストの低減化、高付加価値化に向けた検討

（水産林務部林務局 林業木材課 林業木材グループ）